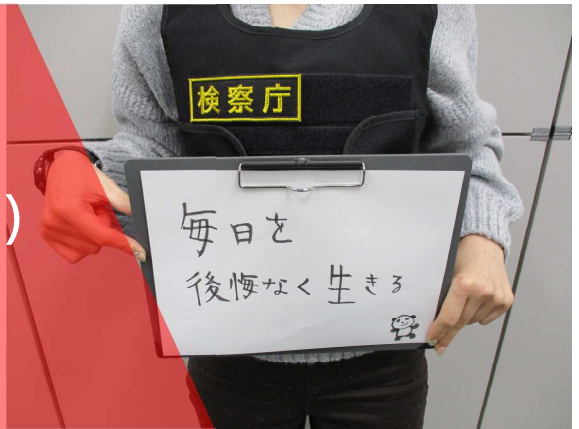


# 大阪地方検察庁

## 検察事務官(機動捜査担当)

30代 女性/平成21年度 採用



モットー 毎日を後悔なく生きる

### Q.今はどんなお仕事をしていますか？

逃亡者を捜し出し、収容する仕事です。主な内容は、逃亡被疑者や逃亡被告人、とん刑者（裁判の執行を免れるために逃亡している人）を探し出して捕まえ、収容することです。逃亡者を見つけるため、日々、地道な調査や聞き込みを行い、それで得た情報をこつこつ積み上げ、想像力を働かせて捜査します。そして、逃亡者を発見したら、入念な打ち合わせ（現場での動き、場所など）を行い、状況に合わせた装備（防刃チョッキ、手錠など）や態勢を十分に整えた上で収容します。収容には、女性・男性関係なく臨場します。

### Q.やいがいや達成感があった経験を教えてください。

自分のがんばりで、逃亡者を発見できたときです。逃亡被告人の所在捜査をしていたことでした。被告人の生活や行動パターンなど、毎日こつこつと所在捜査を進めて情報収集をしていたある日、偶然に、コンビニで被告人と顔を合わせたことがありました。そのときは人員や装備等の収容態勢が十分でなく、収容を強行すると被告人が抵抗して周辺の人に被害が生じるおそれもあったので収容をあきらめ、苦汁をのみました。しかし、それを機会に捜査を進め、ついに被告人の居場所をつきとめ、十分な態勢を整え、無事収容することができました。被告人の居場所の決定打は、把握していた車を発見し、車の中の様子を見に行ったところ、運転席に置いてあったアイスコーヒーの氷がまだ溶けておらず、「近くにいる」となったことです。その氷を見つけたとき、努力が実ったと、とてもやりがいを感じました。

先輩検察事務官インタビュー

## Q. 検察事務官に必要なもの・向いている人を教えてください。

仕事へのやる気・真摯さを持っていることだと思います。仕事の内容で、得意・不得意があっても、周りの人がアドバイスして助けてくれます。仕事を頑張りたい！という気持ちがある人は、向いていると思います。「仕事にそこまで熱くなれるだろうか」という不安があっても、検察事務官の仕事は、とても充実してやりがいがあるので、いざ働くと、頑張りたい！となると思います。

## Q. 検察庁に入庁して良かったことを教えてください。

### 1 良い人が多いことです。

検察官、検察事務官という職種に関係なく、良い人、尊敬できる人がたくさんいます。また、意見は、上司にきちんと受け止められ、可能なことから反映されており、とても風通しの良い職場だと思います。私は、この職場で働けて幸せだと日々感じています。

### 2 自分の頑張り次第で何でもできることです。

性別、学歴による業務（働く内容）の違いがありません。やりたい仕事があれば、希望して努力すれば、大抵のことは経験できます（多くの事件の捜査・公判に関わりたい、事務を極めたい、自分で捜査をしたい、検察庁と関係のある検察庁以外の機関で勤務してみたいなど）。最大の魅力は、検察事務官が検察官（副検事、特任検事）になる道があることです。とても難しい試験がありますが、自分の頑張り次第です（検察官による指導もあります。）。副検事には毎年何人もの検察事務官が任官しています。

やりたいことが分からないという方も大丈夫です。当庁では、2年ほどで異動があり、いろいろな部署の仕事をする事ができるので、自分がやりたい仕事を見つけることができます。私は、これまでいろいろな部署を経験してきましたが、まだ未経験部署がたくさんあり、今でも、将来どういった仕事をしたいかを探しているところです。

### 3 検察官と一緒に働けることです。

法律のプロである検察官には、人間的にも素晴らしい方がたくさんいます。検察官は、検察事務官にとって上司であり、指揮官であり、職務上の上下関係にありますが、その壁をとりはらって仲間、同志として接してくれ、検察官と検察事務官は、みなさんの想像以上に密接な関係にあり、検察官と過ごせる職場環境は、とても魅力的です。

## Q.ワークライフバランスはどうですか？

**充実しています。**そうは言っても犯罪は予告なく起こるので、仕事は他律的で残業もあります。どうしてもその日・その期間内にやらないといけない仕事があるからです。

また、事件の被害者や参考人から話を聞くと、その方が夜しか時間が空いてないとなると、残業して話を聞くことになります。ただ、そのような場合でも用事があるときは、別の人に頼むこともできます。休暇は、よほどの事情がない限り希望日に取得することができます。基本的に土日祝日は休みです（たまに休日の勤務もありますが、他の曜日を休日として休めます。）。

## Q.高卒や法学部を卒業していなくても大丈夫ですか？

**もちろん、やっていけます。**検察官・検察事務官には素晴らしい上司・先輩がたくさんいますから、ちゃんと教えてくれます。法律の知識はもちろん必要ですが、その場その場で必要に応じて勉強できますし、何よりも、やる気があれば周りも助けてくれますので、苦労したことはあまり記憶にありません。礼節や一般常識は、どんな仕事をするにしても必要です。間違ったことがあれば、上司や先輩がアドバイスしてくれます。

最初は皆ゼロからスタートです。

私も、スタート時、法律の知識は全くありませんでしたが、今では役割を果たしています。私も先輩として、みなさんと一緒に悩み、考えますので、共に頑張りましょう。

## Q.この文章を読んでいる人へメッセージをどうぞ。

検察の仕事は、**人の人生を左右する責任の重い仕事**ですので、とても厳しく手抜きは一切だめです。でも、最初から専門的な知識はなくても、働きながら学び成長することができますので、不安に思うことはありません。プライベートでも楽しく付き合いのできるたくさんの仲間や先輩、上司と知り合うこともでき、仕事・プライベートのメリハリのある充実した生活を送ることができます。頑張れば、頑張るほど、充実した楽しい人生を送れます。一度きりの人生、いつどの時も、自分に自信を持って、前向きな人生を送りたいと思いませんか。それが実現できる職場だと思います。

みなさんが、この文章を読んで、検察庁に少しでも興味を持ってくれ、一緒に働きたいと思ってくれれば、嬉しく思います。